

オオシラビソ林の拡大過程における土壌形成の影響 - 八幡平を例にして - Influence of soil formation on spreading process of *Abies mariesii* : Case study in the Hachimantai area

今野 明咲香^{1*}

Asaka Konno^{1*}

¹ 宮城教育大学教育学研究科

¹Miyagi University of Education, MA

中部山岳地方から東北地方の亜高山帯では、オオシラビソやシラビソを主とする亜高山帯針葉樹林が広がっているが、積雪条件や地形条件がそれほど変わらないと考えられる近接した地域でも、針葉樹林の発達に大きな違いがみられることがある。東北地方の八幡平山系において、北部では亜高山帯一面にオオシラビソ林が広がっているのに対し、南部の秋田駒ヶ岳地域では小林分が見られるのみである。そこで本研究では、八幡平山系の北部と南部の土壌形成に着目し、オオシラビソ林の拡大過程について考察する。

オルソ空中写真から判読した樹種構成と土壌形成の対応を見ると、オオシラビソが他の樹種と混交せず純林を形成しているところほど黒色土がよく形成されており、反対に他の樹種と混交していたり、オオシラビソ林が点在しているようなところでは黒色土の形成はあまりよくなかった。花粉分析の結果と比較してみても、この結果は矛盾しない。

以上よりオオシラビソ林の拡大には、土壌の形成が少なからず影響していることが示唆された。

キーワード: オオシラビソ林, 土壌形成, 偽高山帯, 植生変遷

Keywords: *Abies mariesii*, Soil formation, Pseudo-Alpine Zone, Vegetation changes